

ちよつとだけ
最新動向を・・・

～その後は質問責めコーナー～

NPO法人チャイルズ 定例会

NPO法人支援機器普及促進協会

理事長 高松 崇

主な活動と経歴

障害者支援（電子情報支援技術（e-AT）と、コミュニケーション支援技術（AAC）

京都市立 呉竹総合支援学校 特別非常勤講師

京都市立 東総合支援学校 特別非常勤講師

京都府 宇治支援学校SSC 特別支援教育京都府専門家チーム

京都市 ICT活用支援員（総合支援学校ICTコーディネーター）

京都市 総合育成支援員（発達障害児支援）

京都市 精神障害者授産施設 京都市朱雀工房 統括職業生活支援員

京都市 地域若者サポーター（引きこもり支援）

京都府 委託訓練 精神障害者対象パソコン訓練インストラクター

NPO 支援機器普及促進協会 理事長

NPO 障害者芸術推進研究機構 メディアアドバイザー

教育支援（情報通信技術（ICT）の利活用支援）

京都府教育委員会 社会教育委員

京都市 キャリア教育コーディネーター（市立小中高キャリア教育提案）

京都市 携帯電話市民インストラクター

NPO キャリア教育プロジェクト 副理事長

地域活性化支援（ITを活用した経営改善・効率化）

京都府高等技術専門校 在職者訓練インストラクター

中小企業基盤整備機構 経営改善アドバイザー

京都府 京都「知恵の経営」ナビゲーター

京都市 京都地域ITアドバイザー

私も、京都府立向日ヶ丘支援学校 小学部5年生の三男がおります

18テトラソミー

140,000人に一人という非常に出生率の低い染色体異常（18番染色体が4本ある病気です）の我が子と同じ障害を持つ方々との情報交換の場になってほしいと思いつくりました

18テトラソミーの子の成長

140,000人に一人という非常に出生率の低い染色体異常（18番染色体が4本ある病気です）の我が子と同じ障害を持つ方々との情報交換の場になってほしいと思いつくりました

プロフィール



プロフィール | なう | ビグの部屋

ニックネーム: menis18

性別: たかちゃん

自己紹介:

18番テトラソミーという遺伝子障害は非常に

 このブログの読者になる (チェック)

1 | 2 | 3 | [最初](#) [次ページ](#) >>

2010-09-04 11:30:30

最近の「瞭」のようすです

テーマ: 18番テトラソミー

夏休みも明け、楽しく支援学校へ通いはじめました。

以前にも書きましたが、「瞭」は水が大好きです。💧

夏休みには、実家のプールで大はしゃぎ！

学校でもほとんど毎日プールに入れてもらっています。

障害者差別解消法

合理的配慮の事例検索（小中高）

インクルーシブ教育システム構築支援データベース (インクルDB)

文字の大きさ
表示色の変更
• [アクセシビリティツールを起動](#)
• [ツールの使い方](#)

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE
National Institute of Special Needs Education

トップページ ▶ 実践事例データベース ▶ 基礎的情報 ▶ Q & A ▶ その他関連情報

トップページ

◎インクルDBについて

本サイトには、大きく2つのコンテンツがあります。

『[「合理的配慮」実践事例データベース](#)』は、文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」において取り組まれている実践事例について検索するシステム（データベース）です。

『[関連情報](#)』では、インクルーシブ教育システム構築に関連する様々な情報を掲載しています。



「合理的配慮」実践事例データベース

▶ **実践事例データベース** 平

成25年度実践事例データを11件追加しました。
<平成25年度実践事例データ 計105件 公開> (H27.3.27)

[【事例を閲覧・活用される際の留意事項】](#)
[【実践事例データベースの検索方法】](#)



関連情報

▶ **基礎的情報**
法令・施策や関連用語の解説など

▶ **Q & A**
インクルーシブ教育システム構築に関する保護者向けのQ&Aを設けました

▶ **その他関連情報**
就学に関する情報、教材に関する情報など

合理的配慮の事例検索（大学）

独立行政法人
日本学生支援機構
JASSO Japan Student Services Organization

サイトマップ English/Other Languages

検索

ホーム 総合案内 奨学金 留学生支援 学生生活支援 各種調査

ホーム > 学生生活支援 > 障害学生修学支援情報 > 支援・配慮事例

支援・配慮事例

平成27年4月30日

障害のある学生に対し、全国の大学等が比較的最近実施した、支援・配慮事例を紹介します。
今回収集し、紹介する事例は、各大学等において実際に学生に配慮を行なった事例です。これらはそのまますべての大学等における「合理的配慮」となるといった性格のものではありませんが、大学等の規模、設備、組織体制や実施支援・配慮ならびに実際の支援に至るまでの手続きなどの面で多様な事例を提供しています。大学等において各校の状況に応じた具体的取組の検討をする際の参考資料として提供するものです。各大学等における障害学生支援の参考の一助となれば幸いです。

PDF [印刷用プレスリリース \(PDF:933KB\)](#)

1. [趣旨・背景](#)
2. [紹介事例について](#)
3. [調査の概要](#)

事例

- [全般](#)
[体制、取組等](#)
- [視覚障害](#)
[視覚障害・盲](#)
[視覚障害・弱視](#)
- [聴覚・言語障害](#)
[聴覚・言語障害・聾](#)
[聴覚・言語障害・難聴](#)

http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/2014jirei_top.html

Never give up on learning by yourself | Tomonao Matsuya | TEDxKids@Chiyoda



松谷 知直

Tomonao Matsuya

—
キッズオーデションより選出
中学生 学習障害活動家

TED^x Kids@Chiyoda
Independently organized TED event

TED^x



0:08 / 7:33



YouTube



<http://tedxtalks.ted.com/video/Never-give-up-on-learning-by-yo>

就学奨励費
学用品

特別支援教育における教育の情報化

第9章 特別支援教育における教育の情報化

第1節 特別な教育的支援を必要とする児童生徒達への情報化と支援

1. 一人一人のニーズに応じた教育のあり方について

(1) 一人一人のニーズと支援

コンピュータ等の情報機器は、特別な支援を必要とする幼児児童生徒等(以下児童生徒という)に対してその障害の状態や発達の段階等、児童生徒の実態に応じて活用することにより、学習上の困難を克服させ、指導の効果を高めることができる有用な機器である。このような情報化に対応した特別支援教育を考えるに当たっては、個々の児童生徒が、学習を進める上でどこに困難性があり、どういった支援を行えばその困難性を軽減できるかという視点から考えることが大切である。

(2) 支援を必要とする児童生徒にとっての情報教育の意義と課題

情報化の推進は、支援を必要としている児童生徒の移動上の困難や、社会生活の範囲が限定されがちなことを補い、居ながらにしてさまざまな情報を収集・共有していくことによる、大きな社会的意義をもっている。また、インターネットをはじめとした広域ネットワークの世界は、参加する者の、国籍、性別、障害のあるかないかを問わない新たなバーチャル社会であり、そこに参加していくことは、障害のある人にとっての新たな積極的な社会参加の形態ということもできる。

社会の情報化が進展していく中で、児童生徒が情報を主体的に活用できるようにしたり、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作、情報モラルを身につけたりする事はいっそう重要になっている。このような情報活用能力を育成するため、特別支援学校学習指導要領においては、「各教科等の指導に当たっては、児童又は生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、その基本的な操作や情報モラルを身につけ、適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実する」と示されている。

これらの課題は、小・中学校における指導と同様の課題であり、たとえ障害があるからといって変わる事はなく、他の章で示されているような活用を参考に指導を行うべきである。

しかし、支援を必要としている人々は、その状態により情報の収集、処理、表現、発信などに困難を伴うことが多く、前述の情報社会の恩恵を十分に享受するためには、個々の状況に合わせた情報活用能力の獲得が特に求められる。こうした意味では、個々の困難の種類や程度に対応した情報機器は、支援を必要としている児童生徒の大きな助けになる。しかしながら、コンピュータをはじめとする現在の情報機器が必ずしもすべての人々に使いやすい仕様になっているわけではない。そこで、個々の身体機能や認知理解度に応じて、きめ細かな技術的支援方策（アシスティブ・テクノロジー）を講じなければならず、そのための研究開発や、さまざまな事例をもとにしたカリキュラムの研究を行わなければならない。

米アップルと米IBM、日本の高齢者に対する「独自アプリ搭載iPad」の提供計画を発表

今回、高齢者にも利用しやすいようなカスタマイズを施した“iPad用アプリ群”をインストールした特別なiPadの提供が計画されており、日本郵政グループに属する生命保険会社であるかんぽ生命保険の協力の下、2015年下半期中にも国内で試験的なサービス運用が開始され、2020年までに「500万人」の利用者を獲得する狙いとされています。



<http://ggsoku.com/2015/05/apple-ibm-app-ipad/>

自立とは・・・

自立は、依存先を増やすこと

熊谷晋一郎さん（くまがやしんいちろう）

小児科医／東京大学先端科学技術研究センター・特任講師

1977年、山口県生まれ。

“障害者”というのは、「依存先が限られてしまっている人たち」のこと。健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者はいろいろなものに頼らないと生きていけない人だと勘違いされている。けれども真実は逆で、健常者はさまざまなものに依存できていて、障害者は限られたものにしか依存できていない。依存先を増やして、一つひとつへの依存度を浅くすると、何にも依存してないかのように錯覚できます。“健常者である”というのはまさにそういうことなのです。世の中のほとんどのものが健常者向けにデザインされていて、その便利さに依存していることを忘れているわけです。